

平成29年産 コシヒカリ特栽米栽培ごよみ

JAふくおか嘉穂本所営農センター ☎24-7093
 JAふくおか嘉穂嘉麻営農センター ☎57-4000
 飯塚普及指導センター ☎23-4154

肥料・農薬・生産資材の購入はJAから!!

生産履歴は必ず記帳しましょう。

月	3			4			5			6			7			8			9																								
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中																							
生育期間	は種の準備			は種			育苗			田植			活着期間			有効分けつ期			無効分けつ期			幼穂形成期			出穂期			登熟期間			成熟期		収穫適期										
水管理							浅水管理			間断灌水			中干し			間断灌水			浅水管理			間断灌水			落水(走り水)					(黄褐色籾70~80%)													
主な作業	温湯消毒			基肥の施用			代かき			箱施薬			田植			除草剤処理			溝切り			中干し			穂肥			出穂期			穂揃期防除			収穫		※落水時期		1. 収穫一週間前くらいに落水をする。(水管理を十分にしておかないと遅くまで落水期をのばすことはできない) 2. コシヒカリは、遅くまで登熟するので落水は遅らせた方がよい。		収穫早限 黄褐色籾比率70% 籾水分28% 収穫晚限 黄褐色籾比率80% 籾水分24%		適期収穫に努めましょう	

○病害虫、雑草防除基準

赤とんぼA (無農薬)

体系	箱施薬				除草剤			中期除草剤				穂揃期防除			
	名称	使用量	使用時期	対象病害虫	名称	10a当たり使用量	使用時期	名称	10a当たり使用量	対象雑草	使用時期	名称	10a当たり使用量	使用時期	対象病害虫
赤とんぼA	使用しない														

赤とんぼB 基準1または2のいずれか(農薬成分数: 4) (次のいずれか1つを選択)

(次のいずれか1つを選択)

(次のいずれか1つを選択)

体系	箱施薬				除草剤			中期除草剤				穂揃期防除																					
	名称	使用量	使用時期	対象病害虫	名称	使用量	使用時期	名称	10a当たり使用量	対象雑草	使用時期	名称	10a当たり使用量	使用時期	対象病害虫																		
赤とんぼB 基準1	使用しない				キマリテ1キロ粒剤	1kg	田植時~10日	キマリテフロアブル	500ml	(ノビエ3.0葉期まで) ※田植同時処理可	バサグラン液剤(ナトリウム塩)	500~700ml (希釈水量70~100ℓ)	バサグラン粒剤(ナトリウム塩)	3~4kg	広葉雑草、カヤツリグサ、ホタルイ	田植後15~55日、但し収穫50日前まで	キラップ粉剤DL	3~4kg	3~4kg	収穫14日前まで	キラップ粒剤	3kg	希釈倍率1,000~2,000倍 (希釈水量60~200ℓ)	250g	スタークル豆つぶ	250g	田植後20日~ノビエ6葉期まで、但し収穫30日前まで	ノビエ	田植後7日~ノビエ4葉期まで、但し収穫30日前まで	ヘリ防除(キラップフロアブル)	収穫7日前まで	カメムシ類・ウンカ類	
赤とんぼB 基準2 イネミズゾウムシ対策	プリンス粒剤	1箱当たり50g	は種時(覆土前)~移植当日	イネミズゾウムシ、ウンカ類、ニカメイチュウ、コブノメイガ等	キマリテ1キロ粒剤	1kg	田植時~10日	キマリテフロアブル	500ml	(ノビエ3.0葉期まで) ※田植同時処理可	キマリテジャンボ	10パック	田植直後~10日(ノビエ3.0葉期まで)	ガンガン豆つぶ250	250g	田植後3日~8日(ノビエ2.5葉期まで)	使用しない	使用しない	使用しない	使用しない	キラップ粉剤DL	3~4kg	3~4kg	3kg	250g	250g	田植後15~55日、但し収穫50日前まで	田植後15~55日、但し収穫60日前まで	田植後20日~ノビエ6葉期まで、但し収穫30日前まで	田植後7日~ノビエ4葉期まで、但し収穫30日前まで	ヘリ防除(キラップフロアブル)	収穫14日前まで	カメムシ類・ウンカ類

※赤とんぼB基準2の箱施薬は、「プリンス粒剤」しか使用できません。

(必要に応じて次のいずれか2つまで散布できます。
 ※クリンチャーバスまたはフォローアップを散布する場合は、他の剤は使用できません。)

県認証米 (農薬成分: 7)

(次のいずれか1つを選択)

(次のいずれか1つを選択)

体系	箱施薬				除草剤			中期除草剤・防除				穂揃期防除																														
	名称	使用量	使用時期	対象病害虫	名称	使用量	使用時期	名称	10a当たり使用量	対象雑草・病気	使用時期	名称	10a当たり使用量	使用時期	対象病害虫																											
県認証米 基準	ツインターボ箱粒剤08	1箱当たり50g	は種時(覆土前)~移植当日	いもち病、イネミズゾウムシ、ウンカ類	キマリテ1キロ粒剤	1kg	田植時~10日	キマリテフロアブル	500ml	(ノビエ3.0葉期まで) ※田植同時処理可	クリンチャーバスME液剤	1000ml (希釈水量70~100ℓ)	フォローアップ1キロ粒剤	1kg	ノビエ、広葉雑草、カヤツリグサ、ホタルイ	田植後15日~ノビエ5葉期、但し収穫50日前まで	バサグラン液剤(ナトリウム塩)	500~700ml (希釈水量70~100ℓ)	バサグラン粒剤(ナトリウム塩)	3~4kg	広葉雑草、カヤツリグサ、ホタルイ	田植後15~55日、但し収穫50日前まで	田植後15~55日、但し収穫60日前まで	クリンチャーEW	100ml (希釈水量25~100ℓ)	ノビエ	田植後20日~ノビエ6葉期まで、但し収穫30日前まで	田植後7日~ノビエ4葉期まで、但し収穫30日前まで	モゲトン粒剤	2~3kg	藻類	藻類の発生始~発生盛期、但し、収穫45日前まで	コラトップ1キロ粒剤12	1~1.5kg	1~1.5kg	コラトップジャンボ	10~13/パック	いもち病	穂いもちに対して、出穂30日前~5日前まで	ヘリ防除(キラップフロアブル)	収穫14日前まで	カメムシ類・ウンカ類

※県認証米の箱施薬は、「ツインターボ箱粒剤08」しか使用できません。

施肥基準

地帯	肥料名	基肥	穂肥	成分量		
				N	P	K
平坦地	福岡嘉穂ユーキくん2号	35	—	5.7	2.2	2.95
	(フレーバーペースト846)	(40)	—	(4.7)	(2.05)	(3.6)
	福岡嘉穂ユーキくん3号	—	15	—	—	—
	有機エムコート256(基肥1回)	50	—	6.0	2.5	3.0
山中ろ山く間・地	福岡嘉穂ユーキくん2号	30	—	5.1	1.95	2.7
	(フレーバーペースト846)	(35)	—	(4.3)	(1.85)	(3.3)
	福岡嘉穂ユーキくん3号	—	15	—	—	—
	有機エムコート256(基肥1回)	45	—	5.4	2.25	2.7

稲わらの全量還元・土壌改良資材の施用

10a当たり、ケイカル・ミネラルG・珪鉄のいずれかを160kg散布、または、とれ太郎を60kg散布。

斑点米カメムシ類対策

出穂10日前までに、カメムシ類の居場所となる畦畔・草むらの除草を徹底して、圃場への侵入をふせぎましょう。



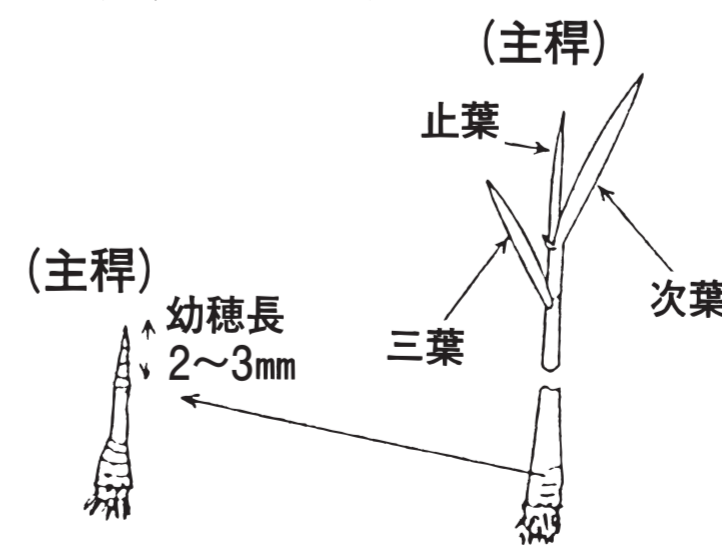
ミナミアオカメムシ

特栽米の条件

※こよみに記載している肥料・農薬等しか使用できません。
 ※他の肥料・農薬等を使用した場合は、必ず報告をお願いします(特栽米より除外します)。

穂肥の診断

穂肥時の稲姿と幼穂長(出穂前20日)



- ・穂肥は葉色をみて量を加減する。
- ・穂肥は出穂前20日(幼穂長2~3mm)頃使用する。

- ・フルイ目 1.85mm
- ・タンパク含有率 6.8%以下
- ・種子更新率 100%
- ・玄米水分 14.5~15.0%
- ・等級 1・2等
- ・入れ目 1%以上(30.6kg)
- ・栽培履歴(必須)

農薬は、散布前に必ず農薬ラベルを確認し、散布時には、天候に注意し、他の作物にかからないように散布しましょう。この栽培暦はJA米の生産基準を兼ねています。要件を満たさない米穀は区分してJAに出荷しましょう。

JAふくおか嘉穂本所グリーンセンター ☎24-4200
 JAふくおか嘉穂南部グリーンセンター ☎57-3915

平成29年1月作成